

勢陽五鈴遺響

河曲郡

十五

和	書	門
二	九	〇
一	九	
函	號	類
冊	架	冊

庫	文	閣	內
二	九	〇	一
九	〇	一	九
函	號	類	和
冊	架	冊	書



内一〇七二五號

内閣文庫	番號	和	29019
	冊數	40	( 15 )
	函號	172	310



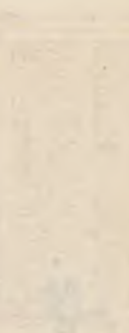
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



Kodak, 2007 TM: Kodak





卷之一



卷之一

河内郡

如汝如不... 河内郡... 汝如汝如不... 汝如汝如不...

汝如汝如不... 汝如汝如不... 汝如汝如不...

汝如汝如不... 汝如汝如不... 汝如汝如不...

汝如汝如不... 汝如汝如不... 汝如汝如不...

汝如汝如不... 汝如汝如不... 汝如汝如不...

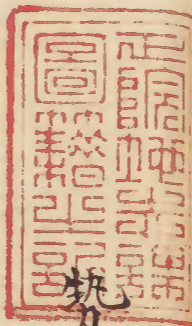
汝如汝如不... 汝如汝如不... 汝如汝如不...

汝如汝如不... 汝如汝如不... 汝如汝如不...

汝如汝如不... 汝如汝如不... 汝如汝如不...

汝如汝如不... 汝如汝如不... 汝如汝如不...





勢陽五鈴遺響河曲郡卷之一

河曲郡 河曲河曲 稱河曲 義河曲 和河曲 名河曲 類河曲 聚河曲 抄河曲 河曲

加波和河曲 訓河曲 今河曲 畧河曲 約河曲 加波河曲 郡河曲 俗河曲 稱河曲 也

リ拾芥抄河曲 河曲河曲 河久摩河曲 訓河曲 或日本天武

紀越大山至伊勢鈴鹿爰因司ノ守三宅連石床

介三輪君子首及湯休ノ令田中臣足麻呂高田

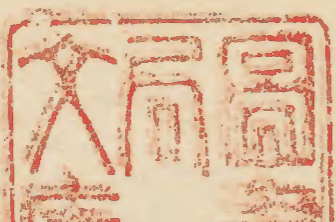
首新家等参過于鈴鹿郡則且発五百軍基鈴鹿

山道到河曲坂下而日暮ス也云云河曲加波和

訓河曲 然レ河曲 此郡ノ名河曲 非ス鈴鹿郡河曲 有

スル地名河曲 シテ鈴鹿郡河崎村河曲 載タリ其地

異ナリトイハレ河崎ノ地ハ鈴鹿川安樂河ノ



堺ニアル処ニメ河水ノ隈ニ在ルカ故ニ河曲  
ト称スル例ニ拙テ本郡モ加波和ト訓スルヲ  
適ヘリトス東鑑壽永三年六月條ニ河勾三郎  
實政懸御調度トアリ河勾河曲相曰ク加波和  
ト訓セリ本郡ハ鈴鹿川ノ下流ニ甲斐川高岡  
ノ大河其郡ノ北ニアリ又服部郷ノ大流郡ノ  
南ニアリ南北相對シテ二河ノ隈ニアリ以  
テ加波久麻ヲ畧シテ加波和ト称スナリ別  
論ナリ順和名類聚折云河曲郡 神戸 馭家  
中趾 奈加止 海部 阿未 阿部 加美 加美  
資母 之毛 深田 布加多 今考ニ神戸ハ神封ノ  
地ニメ今ノ府城神戸ナリ海部ハ今ノ長太村

深田今ノ肥田村ナリ後世轉化セシメ  
本郡封疆ハ東ハ蒼海ヲ隈ニ西ハ鈴鹿郡界  
外限リ東西一里余南北一里 神宮雜例集曰  
光孝天皇之御宇大武武則預神戸ニ神鳳抄曰  
河曲郡神戸御神酒三斗副米九斗祭料並造酒  
米二石懸カ稻四十束織御衣一疋荷前御調系  
二疋筵十枚薦三十枚同神戸田數百六十三丁  
竹書一本云本田百丁加納九十丁同云河曲郡御  
笠縫役田池田兵五丁餘二河副里八坪内一町  
神田二十七町保元年中依勅願奉寄二町瀧祭  
節供料十村邑文祿三年檢地三十八村正保  
二年三十六村 明曆中勢陽雜記所載三十六

村外小邑一村 元禄十三年檢地四十二村  
今計三十六村外小邑八村通計四十四村外城  
中ヶ処無里一処 正税高文禄三年檢地三万  
三千四十石八斗九升二合 勢陽雜記所載明  
曆中三万千四百二十八石八斗一合内二万六  
千六百八十四石二斗五升田四千七百四十  
四石五斗五升一合畑外高三十四石一斗三  
升二合新田元禄十三年檢地 三万二千三百  
九十三石八斗一升七合 陸地ハ菴藝郡白子  
村ヨリ至垣肥田神戸高岡村ヲ歴テ三重郡今  
宿ニ至リ今ノ東海道伊勢參宮路四日市桑名  
郡桑名駅ニ至ル北本郡北長太ヨリ三重郡

南五味塚南川村 至ル池田高岡五ノ七至ル  
間道十ノ南ハ本郡三日市ヲ先菴藝郡稻生村  
ニ至ル安塚ヨリ至ル至レリ日道六ノ西ハ神戸  
ヨリ鈴鹿郡甲斐ニ至ル又西条ヨリ野辺竹野  
ヲ經テ鈴鹿郡岡田ニ至レリ東ハ舟行ノ若松  
長太ヨリ東海尾張三河及本及四日市桑名ニ  
至ルヘレリ  
竹野 鈴鹿郡岡田ノ東ニアリ平林ノ間ニ民居  
ス多計乃ト訓ス正税三百二十四石龜山領ナ  
リ俗傳云往昔竹野牧ト云アリ牧馬ノ畜レ処  
ナリト云詳ナラス  
野辺 竹野ノ東及尺ノ平林田畝ノ間ニ民居ス

程乃半倍下訓ス或云旧名野日野今轉訛ノ  
野辺ト称セリ正税五百十五石龜山領ナリ神  
鳳抄云内宮野日野御厨二十町神風徴古録野  
日野辺ニ通音ス此処ニ在スル処ト云是ナル  
ヘシ  
三日市 野辺ノ坤位ニアリ平林田間ニ民居ス  
美加伊知ト訓ス正税八百四十二石神戸領ナ  
リ勢陽雜記不載非ナリ  
○太子山如来寺 同処ニアリ本尊阿弥陀佛  
信濃国善光寺一躰分身ノ仏ト云今高田山専  
修寺派推古天皇勅創聖徳太子闕基聖徳王自  
彫ノ像ヲ安置ス御足ノ背ニ親鸞上人四十六歳

関東修行ノ時自筆ノ銘文アリ坊中 壽福院  
良珠院 撰取院 常超院ノ子院アリ寺傳云  
高田闕基顯智大僧都七月四日市中説法ノト  
キ畢テ後其行処ヲ知テス聽衆尋慕テ所不息  
此事蹟ヲ今ニ摸メ毎年七月四日僧侶称名念  
佛ノ故上人ヲ尋索ルノ意ニシテ法會アリ方  
僧ホシナリ聖徳王ノ肖像アルニ拠テ太子山  
ノ号アルナリ伊勢名所図會ニ延喜帝勅願所  
又垂井祭ト記スルハ非ナリ  
河田 神戸乾位ニアリ早斐川ノ東ニ民居ス加字  
陀山訓ス河流ハ水厓ニ通ク水田アル故ニ名  
ノ正税五百五十二石神戸領ナリ神鳳抄河曲

神田内宮五石外宮三石外宮神領目錄ニ外宮  
河田納所三斗此神田本邑ニ属ス処ト云其故  
ハ式内河神社ノ坐地ニシテ高岡川ノ曲隈ニ祭  
リ其郡名ニ称スルニ至リ河曲神田ノ名他  
アル処ナシ然レモ余河曲郡ニ在ル故ニ河曲  
ト云ハ博ク通スト云惑アルヘシ故ニ詳ニ叙  
セリ或云神鳳抄河曲神田ハ河田ヲ曲ニ誤写  
ナルヘシ此昏誤多ケレリナリト云余考ニ河  
曲神田ヲ真トスヘシ余名郡余名一志郡一志  
アリ俗ニ親郷ト称ス河田モ旧昔河曲ニシテ  
後ニ田ニ誤ルナルヘシ然レモ河曲郡ニ在リ河  
曲上ノ件ニ例セリ親郷ト云ヘキモリ孰レ河

神社河水防禦ノ守護神ナレハ本郡ニシテ崇  
敬アルヘシト憶ヘリ  
式内河神社高岡川ニ在リ余経歴スル高岡神  
社ヨリ高岡川ヲ南ニ涉リ堤塘ノ上ヲ歩ス  
二十餘町ニシテ左ノ田圃ニ下リ田畝ヲ歴テ木  
邑ニ至リ本社ニ詣ス木田村ノ鬼太神社ヨリ  
川上ニ西位ニ去ル  
廿町大畧上ニ日シテ度  
會延経神名帳考證曰川神社高電神河原田村  
此乎云々度會正身神名帳再考證曰川神社  
考證曰河原田村ナルヘシ祀神水靈云々親  
毅考ルニ延経考證ハ川神社ノ名ニ拠テ高電  
神ヲ祭リ河原田村ニ在ルヘシト叙セリ正身

再考證ハ考證前説ニ從ヒテ別考ナシ祭神水  
矣ト解ス愚考ルニ河神社ノ名此郡ニ鈴鹿郡  
界ヨリ本郡高岡村ニ至ル高岡川アリ街道ノ  
大河ニシテ隱蔽ナキニ依テ河流ヲ高岡ト云  
名ヲ亦冒シ高電神ハ水神ナルカ故ニ奉祀ス  
ル処ナリト鑿盡セルナリ然レモ河原田村ハ三  
重郡ニ隸屬スル処ニシテ高岡川ノ北位ニア  
リテ稍遠シ今古郡ノ差アリトイヘモ既ニ後  
條高岡神社ニ考證水矣高電神ヲ祭ルトイ  
ヘルハ又高岡川ノ名ノ著ニ拠テ水神ヲ祭ル  
ト定ム然ルニ河原田ニモ雷同ノ月神ヲ祭ル  
義ハ亦ルカカラス各臆斷ニノ從ヒカクシ然

レトモ河神社ハ大畧水神ヲ祀ルト云モ河ヲ  
昔トメ河ノ神ノ社ト訓スレハ例ヌユト以河  
山神ナル時ハ水神ハ明ナリ高岡ハ地名ニシテ  
其祭神ハ知カクシ河田ハ旧名河曲ニシテ其  
各郡ニ素名一志郡ニ一志村アルカコトニ所  
謂俗呼親郷ト云ナルヘシ神鳳抄河曲神田内  
宮五石外宮三石後世ニ神領目錄外宮河田納  
所ニ斗ト載ストイヘモ本郡ニ河曲ト名ク地  
ナシ即河田旧ハ河曲ニシテ河神社ヲ祀ルニ其  
他ノ地ヲ容ルヘキナシ竟然近神名帳考正及  
木勢陽雜記拾遺三重郡河原田村ニ所坐ト云ハ  
考證ニ從ヘルナリ式社案内記勢阳俚諺俱ニ



本郡河田ニ所坐ト云然リ是トスヘシ  
木田高岡川ヲ隔テ河田ノ北ニアリ高岡泉川  
ノ下流西派ノ間ニ民居ス喜田ト訓ス或ハ紀  
田氏作ル旧名鬼太ナリ今伎陀ト田ヲ濁音ニ  
訓スレトモ伎多ニテ清音ニ訓シテ高岡川ノ  
北ノ義ナルヘシ正税五百九石神戸領ナリ勢  
田雜記拾遺ニ本邑ノ西ノ野ニ村上天皇勅願  
草創ノ伽藍アリシニ往昔ヨリ永祿中ニ至リ  
兵火ニ回録ス其寺跡存セリト云  
山邊 木田ノ坤位ニアリ石茶師馭ヨリ十三町  
河田ヨリ北ハ二十町高岡川泉川二岐ノ間ニ  
民居ス耶麻倍ト称ス或山部氏作ル正税百五

十二石神戸領ナリ神鳳抄外宮山辺御園一石  
三斗雜用料二石内官山辺新御厨五十二町  
勢陽雜記勢陽俚諺及勢陽雜記拾遺等ニ山辺  
村ハ山辺赤人生産ノ地ニシテ山上ニ旧跡及  
赤人ヲ祀ル祠アリ其良位ニ一字一石ノ経塚  
アリ神戸城主一柳監物領宰タリシ時此塚ヲ  
祭テ石棺ヲ得タリ蓋ヲヒラキタルニ大円鏡  
一面経卷在シト云又村里ノ麓ニ清泉アリ赤  
人ノ硯水也ト云近世ニ至リ禁廷毎春試筆ノ  
御硯水ノ料ニ献セシナリ其時赤人四方時鳥  
ト云難題ヲ給ハル詠テ奉ケル  
北ノ山邊ノ月ノ初ノ山ノすめ

又鎌倉右大将頼朝ノ逸馬生唆モ此処ヨリ出  
シナリ山部ノ里長野登山ノ観音ヲ信シ其夢  
ヲ感ス山ノ麓ノ鳩ヶ峯ニ何某ナル者ノ馱馬  
ヲ求メハ名馬ナルヘレト夢覺テ彼処ニ至リ  
馱馬ヲ乞得テ鎌倉ニ献リケル頼朝賞メ右馬  
左工門ニ任ウル今ニ里正ヲ右馬左工門ト称  
セリ又蒲曹子範頼西海ノ軍ニ彼馬ノ産処ヲ  
慕テ此処ニ来リ後代ノ證トテ椿ノ枝ノ采配  
ヲ地ニ挿ス自ラ枝葉ヲ生茂リ今ニ田間一間  
四方ノ塚ノ上ニ石地藏老樹ノ椿アリ花形尋  
常ニ異ニメ覆リ登ク予木ニ貫タル総ノ形ナ  
リ云々伊勢名所拾遺和歌集東海道石茶師ヨ

リ三町許北ニ山辺村アリ此麓ニ清水アリ是  
ヲ五十師原モ五十師清水トイヘリ古老傳ニ  
此清水近世マテ禁裡ヨリ毎春試筆ヲ硯水ニ  
汲運シナリ此山辺村ハ古ノ歌人赤人ノ在所  
ト云赤人ノ古屋敷トテ山上ニ東西百間南北  
八十間並木ノ老松今ニアリ又鎌倉ノ頼朝卿  
ノ逸馬生唆モ此処ヨリ出タルト云々  
古屋草紙山辺村ノ条ニ大井神社村雲命信濃  
大井神ト曰神坐ス又鈴鹿郡賦大井神社ハ山  
辺ノ御井ニテ河曲郡山辺村ニ坐ス云々  
湯雜記拾遺云生唆ノ出処ヲ駒ヶ淵ト号ス馬  
左工門屋敷址又頼朝御ヨリ賜ハル陣具尸

リト云又此邊ニ蒲川アリ云々 按ニ山辺赤  
人父祖生亡ノ事蹟未詳○姓氏録曰垂仁天皇  
裔正六位上山辺大老人又萬葉集山部宿称拾  
芥抄云聖武ノ朝ノ人ナリ万葉ニモ神龜元年  
ヨリ天平八年マテ哥アリ○作者部類曰上総  
国山辺郡人也彼処ニ有窟亦飛鳥井雅經古今  
抄ニモ彼処ニ窟アリトス○貞享記赤人ノ塔  
興福寺ノ中新坊ニアリ○和州宇陀郡山辺村  
ニ赤人塚アリ土人圓塚ト称ス大和名所因會  
ニ記セリ又古事記ニ抄ル片ハ山辺ハ垂仁帝  
朝ヨリ起レリ古事記垂仁卷大中津日子命者  
山辺之別等祖也○同記ニ故今聞高往鵠之音

始為阿藝登比爾遺山邊大鷲令取其鳥○又山  
辺氏アリ○古事記清寧卷山部連小楯任斜間  
国等 日本書記顯宗天皇朝伊與来日部小楯  
始賜山部連ヤ訓スバ○古事記應神卷曰其將軍  
山部大楯連取其女鳥王所纏御手之玉釵而予  
已妻○天武帝十三年十二月大伴連等二十五  
氏宿称ノ尸ヲ賜フ山部ノ連ヲ宿称ト改ム  
續日本記延暦四年五月詔曰臣子ノ礼必避君  
諱頃者先帝御名及朕之諱公私觸犯猶不忍聞  
自今以後宜并改避於是改姓白髮部為真髮部  
今山部為山○日本後記桓武天皇諱山部今改  
山部姓曰山按○文德實録卷八天安元年正月

天皇御南殿觀青馬條云從五位下山宿称池作  
○土佐日記云山保憲アリ既云批ルトキハヤ  
マベ村ハ山部ナルヘシ山辺赤人ハ姓ハヤマ  
ノベト訓スヘシ山部ト山邊ハ姓氏別ナリ殊  
ニ赤人當因經歷ノ事蹟本批ナシ和州山辺ニ  
其塚アルモ山辺ノ名ニ批テ俗ノ設クル処ハ  
必セリ皆此処ヲ赤人ノ居地トスルハ荒唐ノ  
言ナリ○今考究スルニ此地東西方百間南北  
八十間ニ及テ垣輪並松ノ古樹アリ馬鬣封ノ  
如クニテ是荒墳ニ似タリ况ヤ其辺ニ石經塚  
アリ○勢陽雜記ニ其塚ヲ祭テ石棺古鏡ヲ得  
ルト云ニ批テ墳墓ノ地ト云カ如ク然レトモ

今ニ至リ其地ニノ往ニ兵器等ヲ鑿出スリテ  
リ故ニ鈴鹿郡賦ニ孝德帝朝ヨリ以前山部氏  
歷代ノ葬地ナルヘシト疑ヘリ未其山部氏族  
ノ此ニ居スル処ノ微ヲ郡賦及拾遺俚諺等方  
葉集ノ山のへのいそト批御井ヲ此処トス神  
風徴古録ニハ鈴鹿郡山辺村ニ出ス大ニ誤ナ  
リト辨セリ其畧云異本ニ山ノ辺ノ御井丁鈴鹿郡  
ノ界山辺村ニ出ス大ニ誤ナリ和銅年中ハ大  
和都ヨリ伊勢ニ至ル今云小倭海道ナリ石茱  
師ハ弘治二年ニ関安藝守盛信関ノ城ヲ龜山  
ニ遷シ築ク此時ヨリ街道トナル其時マテハ  
関ノ東小野ヨリ邊法寺川碕采女ニ至ル街道

ナリ此ニテ考フベシト云ヘリ然ルトキハ今  
ノ石茶師庄野ノ官道ハ弘治年中ノ後ニ開ク  
処ニメ上世ノ大倭ノ都ヨリ至ル街道ニ非レ  
ハ此山辺村ハ万葉集ニ載ル処ノ山辺御井ニ  
非スト云モノ辨ナリ  
萬葉集卷第十三詠山  
邊御井長歌曰  
八隅知之和期大皇高照日之皇子之聞食御  
食都因神風之伊勢之因者因見者之毛山見  
者高貴之  
河見者左夜氣之清之水門成  
海毛廣之見渡島名高之已許辛志毛間細香  
毛桂卷毛文尔恐山辺乃五十師乃原尔内日  
刺大宮都可倍朝日奈須目細毛暮日奈須浦

細毛春山之西名比盛而秋山之色谷付思吉  
百磯城之大宮人者天地与日月共万代尔母  
我  
賀茂縣主真淵万葉考曰見渡島名高之是之  
ハ因ノ形ヲイフ大宮都可倍是大神宮ニ齊王  
各仕奉ヲ云浦細毛ハ仕入玉ヲ才褒ム色名  
付思吉ハ齊王ニ從ヒ奉ル命婦乳母等縹其外  
女官ヲ指メカクハヨメリ大宮人者コレ皆大  
内ノ女官ナルコト云レキ云々以上伊  
勢國ヲ褒玉ハルハ既ニ日本推古天皇紀曰  
天照大神誨倭姬命曰是神風伊勢國則常世乃  
浪重浪歸國也傍國可憐國也云云随大神教其

祠立伊勢国奥齊宮于五十鈴川上自意下曰  
五十鈴ノ原尔大宮都可倍トツク外河内齊  
宮離宮ノリニ非ス大神宮ノリナリ今本ニ五  
十師ノ原ト有ハ原本草書ニ鈴ヲ師ニ見テヤ  
マナリ認メリ况ヤ五十ヲ伊曾ト訓スルモ妄  
ナリ古言ハ五十ヲ伊ホメテ訓セリ俗説ニ延  
喜式ニ伊蘇上社又曰郡伊蘇村ニ古井又五十  
師ハ壹師ノリニ一志郡宮古村志井ナトヲ  
混メ指ス説多シ皆偽妄ニ今ノ五十鈴原ニ  
必セリ且御使ノ王臣ノリヲイワズ只奔王ノ  
仕奉リ玉ヘルニ時祭礼ナトノサマヲヨメル  
ナレハ女官ヲ褒テカニハ入リ返歌山迎也

十鈴原乃御井者自然成錦羊張流山可母ヲ合  
セ考ルニ此大御宮ハ今モ山ノ迎ルノ廣ク平  
ナルコトハ山ノ迎ノ五十鈴原凡イフハ其  
処ニ御井或山水ノ流ルハサマモ奇異ナレハ  
カクヨシ又長田ノ王モ山ノ迎ノ御井ヲ見カ  
テリヨヨシ玉ヘルモ既ニ御井ニテ所ノ名ト  
ナリシコトナレ今ハ山崩川溢テ名ヲ失  
タルナリ右ノ歌大宮都可倍トツク考ルニ  
天皇御幸ノ片方又離宮ノリカト思フニ持統  
ノ御幸ハ五月廿六日返歌ニ合ハズ聖武ノ御幸  
ハ河口ノ行宮ニテ女官ノリカト思フニ合レハ  
カナハズ離宮ハ山遠キ処ナレハ不合其餘此

歌ニカナヘルナレ只大神宮ニ仕奉ルナリ  
大宮ツカヘル云ヘレ古事記景行帝條ニ曰  
参入伊勢大神宮拜神朝廷小朝廷ニ比ノ書載  
ラレタルナリ考併スル此ニ解注スル処ハ  
此山辺村ノ地ニ非ス太神宮ノ域内ニアル処  
ト指ス故ニ近俗内宮風日祈宮ノ橋ヨリ東ニ  
至ル僧尼遙拜所ノ道傍ニ山陰ニ清泉アリ此  
ヲ指メ山辺ノ御井ト称スノ謂ナリ本居宣長  
玉川其白万葉集哥ニヨメル伊勢国ノ五十  
師ノ原山ノ邊御井ハ鈴鹿郡ニテ今モ山辺村  
ト云処ナリコトニ山辺ノ赤人ノ跡ト云傳ヘ  
タル地アリ又同レ人ノ硯水ト云古キ井モアリ

リコレ山ノ邊ノ御井ナリ然ルニ赤人ノナリ  
レモ云傳タルハ中昔ヨリレテ山部云フ姓ヲ  
モ山ノ邊トセルカウ此地ニツキテイヒヨセ  
タル僻言ナリサルハ赤人ノ世ニ普ク名  
高キ故ナルゾカレサテ五十師原ヲ万葉ノ今  
ノ本ニイワジノハウト訓ミタル尾古ヘハイ  
ソト云フニ五十ト書タル事ナケレハ誤ナリ  
イレノハウト讀ムベシ五十ト書ルヲハ伊ハ  
ヨムハ此乃六文字ニテ調ワロレト思フ人モ  
アルヘカニメレドソノカミセ文字ノ勺ヲ六  
文字ニイヘル例オホキ中ニ地ノ名ナドハ殊  
ニヨリタルマニ四文字ニモ六文字ニモヨ

メル常ノトナリ扱イシノハテガ云名ノ由ハ  
今石茶師ノ馭ニ石茶師トテ寺アリテ石ノ佛  
ヲマツレルソハ地ノ上ニオムツカテニ立ル  
大キナル石ノヲモテニ茶師ト云佛ノカタチ  
エリツケタルニテ此石アヤシキ石ナリコレ  
ニヨリテ思フニ佛ヲエリタルハ法師ノ例ノ  
シワサニテ後ノトニテモトハ上ツ代ヨリ此  
アヤシキ石ノ有レニヨリテソノ原トハ  
名ニ負タリケニ今モ其アタリニロクカノ山  
辺村ノキハマテ曰レ野ノツケル処ナリカ  
クテ○万葉集第十三ノ卷ナルカノ長歌ハ持  
統天皇ノ此国ニ行幸アリシ折ノ行宮ノサマ

ヲヨメリト聞ヘ必レハ赤人ノ屋鋪跡ト云ナ  
ル地ソソノ行宮ノ跡ナルヘキオノレ此地ノ  
事年比猶イフカシカリケレハイニ寛政元  
年三月尾張ノ名古屋ニ物セシカヘルサニ迄  
ヨリテ考ヘシニ先山辺村今ハヤマヘト云ヒ  
テ鈴鹿郡ニテ河曲郡ノ堺ナリ石茶師馭ヨリ  
六七町モアラシカ野原ヲユキテ東北ノ方ナ  
リ其野ハマリカ野ト云ヒ西ノ方ハ能褒野  
ヘツ、キテイト廣キヲ此山辺村ハ其野ガ東  
ノハツレノニワカニクダリタルキワハヒキ  
ニ処ナル故ニ東ノ方ヨリ見レ東小山ノ麓ナ  
リサレハ彼長哥ノ返哥ニオノツカラナレ



錦ヲ張レル山カモトヨメルモ西ノ方ヨリハ  
夕、平ナル地ツツギキナレト東ヨツミタル  
サマニヨリテ山トハイヘルナリケリ錦ヲハ  
レルトハカノ行幸ハ六年ノ三月ナレハ櫻桃  
ナトノ花ヲイヘル又ハ大宝二年十月ニモ曰  
シ天皇三河国ニ行幸有レカハ其片ニテモア  
ラシカモレ然ラハ行宮ハ三河工ノ道次ノ行  
宮ニテ錦ハ紅葉ナルヘレトニカクニ長哥ノ  
ヤウ女房達ノ宮ツカヘソサマヲヨメリト聞  
ユレハ必ス持統天皇ナルヘレ扱此ノ所リ今  
ハスベテ松山ニテアダレホハスクナレカノ  
赤人屋敷ト云ハ山辺村ヨリ南ノ方ヘイサハ

カノボリテ高キ処ニアリテタテモ横モ半丁  
ニハ夕イスホトノヒラニテ今ハ畠ナリ其西  
北ノスミノ処ニ石垣ト云モノモ有レヲ五六  
十年バカリサキニ里人ノ埋シトソ又此処ノ  
土ノ中ヨリ碁石ノゴドクナル子ヒサキ石ニ  
佛經ノ文字ヲエリタルヲサリノイツル下ア  
リト云ヘリ扱ソノアタリヨリ伊勢ノ海ヨリ  
見渡サレテコトヨリミレハマコトニ水門ナ  
ストヨメルサマナリ尾張三河ノ山々モ伊勢  
ノ山々嶋々モヨク見ヘ高岡川ト云フ川村ノ  
東ヲ流テマヂカク見オロサルヲナドスヘテ  
カノ長歌ノケレキニヨクカナヘル処ナリ御

井ハソコヨリ南ノスコシ西ノ方ヘクダリ  
ル谷アヒノ田ノ中ニアリモト水アリシカ近  
キコロトナリテハアセテ水ハナカリケレト  
此一トセニトセサキマテハ井ノ方ハ残レリ  
シト云フ見レハ今ノ井ノカタダニノコラス  
皆田ニナリテタ、イサ、カナル処ニ古キ松  
一モトタテルノミナルヲ此松ノ木ナニ御井  
ノ跡ナリケルト云ヘリソノ近キ里ニ八十八  
ニナレルト云翁ノアルガカタリケル此松  
オノガワカ、リシホトニ年老タルモノ昔  
モ今モ曰レトニテカハラズト云ヒシヲ  
コロモ今モ又イサ、カカハルトナク高クモ

フトクモオラズタ、曰レトナリヤソ語りケ  
ル今ミルニサシモ大キナル木モアラズヨ  
ロシキホトニテマコトニフルクハモヘタリ  
今ヨリ後モシ此松サヘ枯失タラニハサバ  
カリノ御井ノナゴリタニナクキエテナニノ  
了奈トモイトモ心ウクウレハシキワザナレ  
ハイカデ石フミナドヲ立テ跡ヲダニ長キ世  
マデノコサマホシキワザナリカシ扱又尸人  
赤人屋敷ト云処ヨリ東北ノ方ヘクダレル処  
ニモ古クニユル井アリ山辺村ノ東南ノハズ  
レノ処ナリコハヨノツ子ノ井ノサマニ石ヲ  
ツミタクウシテ水モアリ此水イミシキヒデ

リニモカレスト里人云ヘリソモ古ノ御  
井ハ此ニツノ内ニテイツレナラニサダカ  
タシ赤人ノ硯水ト云傳ヘタルハシメニイ  
ホル方ナリタハシ百三十四年ハカリモサキ  
ニ或人ノ此国ノ丁尾シルセル勢陽雜記ト云  
モノニハカノ赤人ノ屋敷ノ丁ヲイヒテ其麓  
ニ清水アリ赤人ノ硯水ナリト云傳ヘタリト  
シルセルハ後ノカタハカノ麓ト云ヘキ処ハ  
ジメノカタハヤサカサテカノ麓トハイフ  
マシキ処ナレハナリサレトコハタシカニミ  
ズカヲユキテシルセルカハタ里人ノカタレ  
ルヲ聞テ大カタニ云ヘルカニリガタケレハ

頼ミカタレソハトマレガクマレ五十師ノ原  
山邊ハウタガヒナク此処ニテ赤人屋敷ト云  
地ノ行宮ノ御アトナルヘク又御井モカハニ  
ツノウチハハヅルヘカラストソ思ハル、然  
ルヲ師ノ万葉考ニハ五十師原ヲ五十鈴原ト  
改メテカノ長歌ヲ大御神ノ宮ツカヘシヲ  
説キナレテ鈴鹿郡ノ山辺ナリトイフヲ破リ  
テクサクサ論ナラシメレ其説コトノイクア  
タラ又ナリ其由イハシニ数々アリ一ツ  
ニハマヅ師ノ字ト鈴ノ字トハ楷書ハサラニ  
モイハズ草書モ形似サレハ誤ルヘキニ非ヌ  
ニツニハ文字五十鈴ノ原ナラニハサク鈴

大尾サクリ、シロ尾古キ枕討ノアルヲオキテ  
山ノホトリナラニカウニ山ノベノトサセル  
ヨシモナキヲ云フヘキニアラス一ノ巻ナ  
ル歌ニハ山ノベノ御井ヲみかてリトモアレ  
バ山ノベハカナラズ地ノ名ナルヲ五十鈴ノ  
原ノアタリニハ古ヨリサル御地ノアルヲナ  
シスベテカノ神宮ノアタリニフルキ処ハサ  
シモアラスダニ其年コロハウレナフトイヘ  
トモサスガニ名ハ残りテカレコノ書尾ニ見  
ヘザルハナキヲコレハサハカサフル久名高  
キトコロナルニ見ヘサルヤウナレニツニハ  
カノ長歌モシ大御神ノ宮ツカヘノトテヨク

ルナラハカナラスソノ大御神ノ鎮リ坐スル  
ヨシナトヲコソイハキニ其大御神ノ御  
言ハ一言モイハスレテニハカサ大宮ツカハ  
ト云ヘキヨシナレ始メヨリ目ノ御子ノ御食  
ツ圀ト云ヒテ大宮ツカヘトイヘルハ天皇ノ  
宮ナルヲ疑ヒナクサラハ嶋ノ名高ニイハ  
ズテ行宮ヨリ見渡レタルケレキヲモテイヘ  
ルサマイチヅルシ四ツニハ内親王ノ宮ツ  
カヘシ玉フヨクイハイツキヲニコトモイツ  
キノミヤ尾ヒメニコト何尾其御子トキコエ  
ル詞アルヘキニサルコト一言モナクテユク  
リナク大宮ツカヘト云ヘキ物カハタハ天皇

ニ仕奉ル女官達ナルコト論叶キモノヲヤ五  
ニ從モルルキノ大宮人トハ天皇ニ仕奉ル人  
コソ聞ハタレタトヒ本ハ大内ヨリ来リシ人  
ナレハ此テ今齊内親王ニ仕奉リ居ル人ヲウ  
チマカヒテ然イハシコトハイカバ六三ハモシ  
奇王ノ大御神ニツカヘ玉フコトヲヨメル哥ナ  
カニニハ返哥ニ御井ノノルミヨメルハ何  
ノ由リヤセツテハカノ鈴鹿郡ナル山久迎ノ  
コトヲ俗説ナリトテヤブラレタルモアタラズ  
俗説トハ赤人ノ説ト云コトナリ赤人ノ事ハ山  
邊ト云地名ニヨリテ附會タル物ナレハ其説  
ユソ俗説チレソヒヲトシ捨テラニ其ハ何ノ俗

ナルコトカアラニソモシカ赤人ノコトナリ  
ヨセタルモモト山迎ト云処又古キ清水ノア  
ルユヘナレハソレモカヘリテ古キアトナル  
證トコソスヘケレ又カノ山迎村ニ在レヘ  
倭姫命ノ宮有シト云モ尙ナリトテソノヨシ  
ヲ論セラレタルモアタラス倭姫命ノ宮ノコ  
ハ今里人ノ云傳ヘハナケレ共モシサル説ノ  
アラハソレハタ行宮ニヨシアリ持統天皇モ  
女帝ニマシマセハソノ行宮ヲ倭姫命ノ宮ト  
誤傳ヘタリトモハコレ又カヘツテ行宮ノ證  
トスヘシハツニハ持統天皇ノ伊勢ノ行幸ハ  
書記ヲ考ルニ六年三月六日辛未ニ京ヲタハ

セ玉フテ同月廿日乙酉ニカヘラセテヘリ然  
ルヲ此行幸ハ五月ナリトイハレタルモ誤ナ  
リソハ記ニ同年五月乙丑朔庚午御阿胡行宮  
時進贄者云トアルヲ見誤リテ万葉ノ表書  
ニ五月云ト引ルヲトシテ五月トハ誤ラ  
レタルモノナリカノ記ノ文ハ三月ノ行幸ノ  
片ニ阿胡行宮ニテ贄ヲタテテ記セルモノヲ  
五月ニ賞セラレタルヲ記セルナリカノ記  
ヲヒラキミテシルヘレ九ツニハ万葉一ノ卷  
ニ山のへ此御井ヲ見カケリ云云ノ哥ハ長田  
王伊勢ノ齊宮ヘヲホヤケテ下ニテ下ニテ  
ツイテニ名高キ処ナシハ此御井ヲモ見ニ立



ヨラレタルナリサレハコレモ鈴鹿郡ハ路次  
ニアラス遠シトテモ妨ナシ大御神ノ宮ノ中  
ナラニハ御井ヲ見カテラ物セシトイカ、  
トソ思フト云々ニ思考ニ万葉集所載山辺ノ  
即此上俗称スル赤人清水ヲ指ス処鈴  
鹿郡賦勢陽雜記拾遺勢陽俚諺等名前輩雷同  
セテ獨神風徴古録鈴鹿郡山辺ニ在ト云ハ大  
ニ誤リリト云是前件ノ賀茂真淵万葉考ノ説  
ニ拠レルナルハト万葉考ハ内宮域ニ在ル処  
ト云前説ヲ排メ尧明スルニ似リト云ハ再  
日本居宣長玉か川まニ其山辺村ノ地境ヲ闡  
御井ノ在処ヲ詳ニ解セリ今世此ニ從ヒテ

先師ノ説ヲ猶排弁スルニ及テ其蒙霧ヲ披テ  
白日ヲ望ルカ如ク各異論ナレト憶ベリ然レ  
凡或ハ云大和国山辺郡氣原村ニ山ノ辺ノ御  
井ト称スル清泉アリ即方葉第一和銅五年壬  
子四月遺長田王子伊勢斎宮時山辺御井ニ  
作歌  
山邊乃御井卒見我底利神風乃伊勢乃處女  
等相見鶴鴨  
此考遺長田王子伊勢斎宮時及伊勢處女等云  
云ニ拠レハ此山、辺御井ハ本洲ニ所在ハ必セ  
リ然レ大和都ヨリ伊勢斎宮ニ至ルノ此地ハ  
順次ニ非ス稍ク河曲郡ハ斎宮ノ北ヲ去ル九

里許ニ及ヘリト云ヘ凡御井ヲ見加底利ノ辞  
ニ拠レハ熊ニモ其地ヲ經過セラルトモ聞タ  
リ又前説ノコトク大和州ニ有スル処モ山ノ  
辺郡氣原村ハ伊賀国ニ隣リテ名張ニ通キ処  
ニメ上世ノ大和国ヨリ本洲ニ至ル街道ナレ  
ハ其謂ナキニモ非ス猶波多横山ハ本洲一志  
郡ニ隸ル処ト云ヘ凡大和国山辺郡波多村ニ  
同名アリ即延喜式内波多神社坐ス処ナレハ  
其旧地ナルハ知ヘレ猶如是ノ差モ了レハ強  
ク氣原村御井ノ説モ弁ヘキ処ニ非ス故ニ此  
ニ拠躄セリ後賢猶ヨク摯考メ其真ヲ定ムハ

三本集

右馬生倭ノ産ス右馬左衛門任ニ預リ又蒲範  
賴經歷ノ事蹟皆荒唐ナリ生倭ハ馬名ニ非ス  
日向国生月ト云救名ナリ又江源武鑑ナリ聞云  
佐々木カ乗タルイケツキ馬ハ江州伊香郡ス  
ルミ谷ヨリ出ト云又人ヲ咬ム故ニ生倭底谷  
クト云ク○平家物語第九宇治川合戦条曰鎌  
倉前右兵衛佐賴朝本曾カ狼藉シヅメニトテ  
範賴義經ヲサキトテ数万騎ノ軍兵ヲサシメ  
ハセラシテカ既ニ美濃国伊勢国ニモ着ク  
小聞入ニハ本曾大驚宇治瀨田橋引軍兵共ヲ

勢陽五鈴遺郷音河曲郡卷之二

勢陽五鈴遺郷音河曲郡卷之二終



分ケ遺ス 中畧 去程ニ東田ヨリ攻上ル大平大  
將軍ニハ蒲ノ御曹子範頼搦手ノ大將軍ニハ  
九郎御曹子義経宗徒ノ大名三十餘人都合其  
勢六万余騎ト以聞入ル其比ニ鎌倉殿ニハイ  
ケカキ摺墨トテ聞エル名馬アリケテイケツ  
キヲハ梶原源太景末類ニ所望申ケル是ハ  
自然ノコトアリニ片頼朝カ物具ノ采ハキ馬ナ  
リ是ニ劣ラマ谷馬ソトテ梶原ニハスル墨ヲ  
コソ玉テケレ其後近江国住人佐々木四郎ノ  
御暇申ニ参ラレタルニ鎌倉殿イカ、思食ケ  
ニ所望ノ者ハイクテ有ケレ其旨存知セヨ  
其出立イケズキヲハ佐々木ニ賜フ 中畧 佐々木

ノ四郎ノ給ハテレタリケル御馬ハ黒栗毛ナ  
此馬ハキハマテラトウタクマシキガ馬ヲモ  
人ヲモアタリヲ拂テ喰ケレハイケズキトハ  
付ケラレケリ源平盛衰記ニ義仲將軍旨条  
曰此中ニ佐々木梶原馬ニトヨリ聞タリケル  
折ラズ秘藏ノ御馬三匹アリ生喫スル墨若白  
毛トソ申ケル生スキトハ黒栗毛ノ馬高サハ  
寸太ク逞レキカ尾ノ前チホ白カリケリ當時  
五才猶イテクヘキ馬ナリ是モ陸奥七ノ戸立  
ノ馬鹿苗ヲ金焼ニアテタレハ少シモ紛フハ  
クモナシ馬ヲモ人ヲモ食ケレハ生喫トハ名  
ケタリ云云勢陽雜記所謂逸馬生喫此地ニ産

ノ山部里長鶴足山觀音ノ示現ニ批テ所得  
ノ録倉右大将家ニ獻スルニ批リ右馬左工門  
ニ任セラレ西海ノ役ニ蒲冠者範賴經過ノ山  
茶木ノ采幣ヲ地ニ挿ス根孽ヲ生メ今ニ存メ  
逆少ハキト称スト云各土俗ノ謬傳ナリ生啞  
ノ馬ハ源平盛衰記ニ陸奥州セノ戸産ト云又  
江源武鑑打聞云佐々木カ采タルイケツキ馬  
ハ江州伊香郡スルニ谷ヨリ出ルト云又人ヲ  
咬ムエハニ生啞ト名ク又或云生啞ハ馬ノ名  
ニ非ス日向因生月ト云牧ヨリ出ル故ナリト  
孰シ江源武鑑ハ信シ難キ書ナレハ姑ク從誰  
ニ猶或說日向牧名モオホツカオシ公ニ論セ

ハ盛衰記ニ徴トスハ然ラハ奥州ノ産ニメ  
此地ノ産スル処ニ非ス猶觀音ノ示現ニ信シ  
誰シ右馬左工門ニ任スト云ハ河曲郡柳村右  
馬左工門ノ事蹟ヲ混セシナリ其条ニ詳ニセ  
リ又蒲範賴此地ヲ經過ハ絶テナシ壽永三年  
正月山城州宇治役ニ蒲範賴源九郎義經ノ大  
半搦手ノ西將範賴ハ東街道ヨリ尾州熱田ニ  
至リ美濃近江ヲ歷テ入洛ス義經ノ軍兵ハ尾  
張ヨリ本州ニ至リ鈴鹿加太ヲ踰テ伊賀州ニ  
至リ下山城ヲ歷テ宇治畠家渡ニ着陣ノ由ハ  
源平盛衰記ニ詳ナリ全文後號鈴鹿郡石茶師  
馭蒲櫻ノ條ニ引徵ス其地ニ蒲範賴鞭櫻或義

經櫻ト俗稱スルアリ此ニ鞭椿ト稱スルハ白  
譚ナリ各俗謬ヲ傳メ不足論ト云ハレ其  
實ハ石茶師馭所在ノ鞭櫻ヲ真トスヘシ範頼ノ  
兒孫繼白ノ所載ニテ蒲櫻ト稱スルモ故アリ  
此地石茶師ニ隣比ノ地ナル故ニ勢陽雜記ニ  
混合スル処モ猶方俗ノ各誇リ稱スルニ從ヒ  
テ載タルナリ詳ニ石茶師条ニ注セテ併替メ  
其是否ヲ辨スヘシ  
國分ト山邊ノ北ニテ神戶府ヨリ乾位ニ里ニ  
アリ總ノ他州ニハ因府因分ニ処ニテ正  
税四百四十三石公領ナリ勢陽雜記神戶領  
ト又明曆中圖ニハ公領ト載ス元祿中圖ニハ

本郡ニ屬ス今本郡ニ屬ス三重ト本郡ノ界  
ナリト云フ所ニテ今本郡ニ屬ス三重ト本郡ノ界  
常慶山國分寺ニ同処ニテ又リ曰名因分山金光  
明寺ト云ヘリ本尊茶師佛岡山行基菩薩金光  
明壽量品ヲ土中ニ埋ム故ニ金光明ト名ク中  
興鎌倉將軍頼朝郷其後度々炎上ニ及ブ今古  
瓦ヲ出ス研ニ造テ佳ナリ側ニ村上帝朝ニ天  
神窟ヲ祀リテ今ニテアリ六十余洲田因人行  
者納經所トス又因分尼寺此外ニテハ飯高  
郡ニ載ス續日本記第十七聖武帝天平十九  
年十一月己卯詔曰朕以去天平十三年二月十  
四日至心祭願欲使因家永固聖法恒修通詔天

下諸國別令造金光明寺法華寺其金光明寺  
各造七重塔一區并寫金字金光明經一部安置  
塔裏而諸國司等怠緩不行或處寺不便或猶未  
開基以為天地災異一二顯來蓋由茲乎朕之股  
肱豈合如此是以差從四位下石川朝臣年足從  
五位下河倍朝臣小島布勢朝臣宅主等分道亮  
遺校定寺地并察作狀因司宜與使及因師簡定  
勝地勒加管繕又任郡司勇幹堪濟諸事專令主  
當限來三年以前造塔金堂僧房悉皆令了若能  
契勅如理修造之子孫無絕任郡領司其僧寺尼  
寺水田者除前入數已外更加田地僧寺九十町  
尼寺四十町使仰所司懇用應施普告因郡知朕

意焉云云 按二國分寺創建ハ當今ノ朝ナリ  
一必セリ其以往ハ文徳天皇實録及三代實録  
ニ粗見エタリ表章ノコトニ贅又ハ同卷天平  
勝室元年七月乙巳定諸寺墾田地限大安某師  
與福寺大和國法花寺諸國分金光明寺寺別一  
千町中畧諸國法華寺者別四百町云云 同十  
九孝謙帝天平勝室八年六月乙酉勅遣使於七  
道諸國催檢所造國分大六佛像云々  
十宮 河田ノ良位ニアリ高岡川ノ水厓ニ民房  
高ノ登美耶卜訓ス 正稅千二百四十七石旧ハ  
公領ナリ今神戸領トス明曆中因ニナリ彌晚  
ナルハ弘治三年春本郡岸岡城主佐藤中

勢少輔父子此河原ニテ誅セラレ事蹟不後號  
岸岡ノ條ニ詳ニセリ

高岡十宮ノ北ニアリ高岡川南崖ニ民居ス

十加於可小訓ス外屬邑岡本高岡川ノ北崖ニ

勢陽雜記ニ不載正稅五百六十九石神戸

領ナリ勢陽俚諺云神鳳抄高岡御園一石十

二月勤一本不載所見ナリ然レ此抄異本差

誤涵脱亦多シ錯簡ノ不知此ニ標出ス外宮

神領目錄高岡御園九斗六九十二

高岡川本邑ノ北ニアリ鈴鹿川ノ下流ニ

三重鈴鹿郡界ヲ流ル水沢川亦一派ニ合ニ高

岡村ノ北ニ至リ街道ヲ流テ此処ニテ高岡川

小称外南五味塚村ノ南ヲ經テ東海ニ入リ

夏月ハ步渡ニテ秋月洪水多シ舟涉ナリ又月

ニ假橋ヲ架セリ

式内高岡神社同処ニアリ余經歷スルニ高岡

本邑ノ入口ヨリ右ノ傍ノ小山ニ登リ西ニ步

ス一丁許新熊野社アリ又山ノ麓ニ觀音堂

アリ又其道ヨリ東ニ去テ小祠アリ是本社ナ

リ中戸村奈加等神社ヨリ西ニ去テ十六町

度會延經神名帳考證曰高岡神社水灵高電在

高岡川迎道西云云度會正身神名帳再考證

曰高岡神社今ノ街道ヲ北高岡川ノ側ニアリ

云云親毅考ニ延經考證ハ高岡川ノ邊道ノ

西ニ坐降故水厓神ノ氷高電祭ノ祭  
ル定ムル注正身再考證前説ニ從レ  
テ祭神ハ水高岡村今夕街道西坐ス下  
アル方位異ナル再考證ハ今夕街道  
ノ北高岡川側アリト云ハ杜撰ナリ或ハ  
再考證著述ノ時北ノ水厓建タル否不  
知然レ凡考證及勢陽雜記當今ノ方位相適ハ  
ニハ延經為網ハ明曆慶安ノ人正身ハ宝曆中  
左人目今古方位ノ差名此怪ムハ猶  
ニ考證高岡川ニ批テ水靈ノ神ニ配レ又高岡  
ノ名ニ高電語相似ルヲ牽合スルハ附會ノ鑿  
説ニ憶ハリ既本郡河神社同神ナリ防河

守護ニメニ社ニ祀ル一社ニメ鎮護ニ難  
シト思レテ正使副使ノコト同処ニメニ社  
ヲ建ルハ疑惑ニ過タリト謂ハレ勢陽雜記  
拾遺水古屋草紙高電勢陽俚諺ハ高雄神合  
ニ考證ニ媚テ此ニ從ヘリ或云高電ヲ祀ルハ  
タカガミノ約ニメ高岡ト名クト云ハ一西  
ニ堪タリ後人如此前言ノ妄ヲ好メ此奉ニ及  
ヘリ嗟嘆スヘキノ至リナリ  
高岡城址 高岡川ノ北街道ノ山上ニアリ其  
麓ニ家士宅地ノ跡モアリ永禄年中神戸藏人  
具盛ノ臣山路彈正居ス処ナリ其後織田信長  
信孝ニ命メ小嶋兵部少輔ニ賜ハリテ居ス山

路彈正カ男山路將監天正十一年近江因志津  
岳合戰ノ時柴田修理進勝家ノ男柴田伊賀守  
勝豊豊臣秀吉ニ屬シ京勢ニ與シ堂木山ノ砦  
ヲ守ラシム時山路將監大鐘藤八郎ヲノ居ラ  
シム將監叛心ノ柴田カ北軍佐久間盛政ニ屬  
ヒリ旧ハ神戸家ノ臣ニシテ後ニ岐阜城織田信  
孝ニ屬スル故此舉ニ及ヘリ同役ノ加藤虎之  
助清正ニ擊殺サル云云 勢陽軍記曰永祿十  
丁卯年八月信長衆名衆向ノ時南部加用楠降  
参ノ後神戸具盛ノ長臣山路彈正カ楯籠高岡  
城ヲ伐ツ時ニ美濃國西三家氏家稻葉安藤伊  
賀守等異心シテヲ聞テ滝川一益ニ北伊勢ノ

兵卒ヲ命メ伊勢ノ守護トシ信長岐阜城へ歸  
リ再ビ元龜二年辛未正月當國ノ諸家ヲ討ル  
容易ク平均スヘキニ非ス謀略ヲ以其男信孝  
ヲ神戸家ノ養子トシ神戸具盛ハ関安藝守盛  
信ノ男勝三ヲ嗣子トセシトス信長命テ信  
孝ニ嗣シム故ニ神戸関家モ信孝ヲ蔑如ス信  
長憤リ具盛ヲ隱居セシメ蒲生飛彈守賢秀ニ  
預ケ信孝ヲ神戸盛孝ト号ス以前鉾楯ノ憤不  
止ケシハ高田孫左エ門ニ令メ神戸長臣山路  
彈正ヲ誅セシム其弟河木九之丞山路弥右衛  
門尉モ旧ク誅伐因シテ下テ宿所ハ兵士ヲ向  
シム山路兄弟逐電ス故ニ當城ハ信孝ニ命メ

其臣小嶋兵部少輔ヲ居シム神戸家士堀内河  
西木田高田村田岡田山路高瀬佐藤佐々木岡  
部足田馬路守岡伊藤古市ノ輩四百八十人信  
孝カ麾下高属セリ其奈北畠物語モ相同シ  
大閤記曰山路彈正盛信千余人籠城ス信長柴  
田池田丹羽坂井其勢六千余騎ヲシテ討シム  
濃州奇藤道三ノ臣三老謀逆ノ聞ヘニヨリ軍  
ヲ絶メテ岐阜城ニ帰陳ス後永禄十一年春二  
月再々美濃尾張勢四万余騎ヲ率メ関八田安  
濃津細野神戸高岡鹿伏鬼岡府ホリ諸城ヲ討  
シム此時子草守野赤堀稻生ノ諸士等悉ク伏  
誅ス又秀吉信長ノ命ヲ奉テ山路彈正ニ説テ

和睦不信孝ヲ養子トシテ神戸ノ族峯鹿伏鬼  
岡分悉ク信長ノ麾下ニ属セリ真善院諸士  
名録曰神戸樂三ノ孫高岡城主山路彈正少弼  
同弟山路玄蕃正内弟孫右工門曰弟州木九之  
丞等神戸具盛ニ属ス云云  
中戸高岡ノ東ニアリ平坦田圃ノ間所民居ス  
奈加等ト訓ス神戸府城ヨリ良位八町和名  
類聚抄中跡郷トナリ正税千三十石津領也  
式内都波伎神社神戸阿自賀神社ヨリ八町田  
間ヲ経テ本邑ニアリ奈加等神社曰殿内ニ坐  
テ都波岐神社記曰一宮記都波伎神社其昔  
神功皇后征三韓之時新羅在怪鬼鉄輪者能為



幻術乘飾船來吹氣而降霧起雲而降兩衆軍迷  
東西失為方於時現人神猿田彥命飛掩海上開  
口巨鼓雄流忽不荒風津浪起鉄輪舟將覆債其  
相怡然岡吐吐吐吐亦侶因茲後稱此神津  
波伎神中草創者人皇世二代大泊瀨幼武天皇  
治天下二十三年己未春三月因神託奉勅伊勢  
中國造高雄束命中跡鄉存座八岐始建神祠高雄  
束者我苗裔八世孫也則雄畧天皇御宇賜伊勢  
國造居河曲縣中跡鄉都波岐神社奈加茅神祠  
仕奉猿田彥命者伊勢國去大神宮北九十七里  
河曲郡海之西同秘崇焉云云一宮記曰河  
曲郡都波岐神社神社啓蒙曰當國河曲郡椿社

了リ此處二祭神猿田彥命也當社注記無所見  
當國一宮也今考ル社記ハ勢陽雜記ハ所  
載ニレテ記中鉄輪鬼妖術等ハ說ハ一宮記  
批レリ古事記日本書記ニ所見ハ是後世ノ  
俗妄偽ノ作ナルヲ明ナリシ日本神代記曰天  
照大神乃賜天津彥火之瓊之杵尊八坂瓊曲玉  
及八咫鏡草薙釵三種宝物又以中臣上祖天兒  
屋命忌部上祖太玉命猿女上祖天鈿女命鏡作  
上祖石凝姥命玉作上祖玉屋命凡五部神使配  
侍焉因勅皇孫曰葦原千五百秋之瑞穗因是吾  
子孫可王之地也宜通皇孫就而治焉行矣室祚  
之隆當與天壤無無窮矣已而且降之間先馳者

還白有一神居天八邊衢其鼻長七咫背長七尺  
餘且口尻明耀眼如八咫鏡而赭然似赤酸漿也  
即遣從神往問時有八十方神皆不得目勝相問  
故時勅天鈿女曰汝是目勝於人者宜往問天  
鈿女乃露其胸乳抑裳帶於膝下而笑嚙向立是  
時衢神問曰天鈿女汝為之何故耶對曰天照大  
神之予所奉道路有如此居之者誰也故問之衢  
神對曰聞天照大神之子今當降行故奉迎相待  
吾名是猿田彥大神時天鈿女復問曰汝將先我  
行乎對曰吾先啓行天鈿女復問曰汝何處到耶  
皇孫何處到耶對曰天神之子則當到筑紫日向  
高千穗穗觸之峰吾則應到伊勢之椛長田五十

鈴川上云云 按此日本書記ノ所載到伊勢  
之椛長田五十鈴川上ニ於ル時今度會郡宇  
治郷中村五十鈴川ノ邊ニ眞玉森下云鬱林ア  
リ此處ニ猿田彥大神ノ遷移坐ス地トシ其遺  
跡ハ歴然タリ猶與玉神ト稱シ神宮ノ御垣ノ  
乾隅ニ石壇ヲ築テ奉祀シ其鬱林ヲ遙拜スル  
ナリ猶猿田彥神ノ裔大田命ノ孫今ニ至リ宇  
治土公荒木田姓ノ大内人アリ上世ヨリ嚴重  
ノ處ニテ他人容ヘキナシ然ニ他方ニ奉祀ス  
ル處ハ此習風ニテ強テ誇言スルニ非ルヘシ  
猶日本書記ノ教導ノ義ヲ以道衢ヲ司ル處ニ  
以俗道祖神或於幸ノ神ト稱ス洛京五條西

洞院道祖神祠三猿田彦神ヲ卷リ今ハ九條油  
小路生酢屋橋ノ南ニ遷セリ又陸奥国笠嶋道  
祖神ノ中将實方ノ落馬ノ宗アリシ丁宇治拾  
遺ニ道會阿闍梨ニ此神老翁ト化メ讀經ヲ聽  
聞人事蹟ヲ載云々往年鈴鹿郡山本村椿大神  
社ノ初官一宮ノ事ヲ論メ官訴ニケルニ吉  
田長上家ヨリ令セラレテ當社ヲ二宮一宮ト  
督ニ定ラレニ批テ今ニ至テ論ナシ云々三代實  
錄卷十貞觀七年夏四月十五日乙丑授伊勢國  
正五位上稻葉神社從四位下從五位上勳七等  
椿神正五位下云云是旧ヨリ一宮社ヲ預祭處  
ニシテ社域神名煥然ナリテ混スヘキナリ度

會延經神名帳考證曰都波岐神社猿田彦會同  
鈴鹿郡椿大神社今云楠村産社俗稱諏訪都與  
諏橫音通ス此乎今屬三重郡按楠者因津之畧  
語也度會郡因津御祖神社在楠部村與此社同  
神也鈴鹿郡志婆加支神社在楠原村因津ノ義  
也詳于上也云云度會正身神名帳再考證曰  
都波伎神社考證曰今日楠村産社は歟今屬三  
重郡也下其社地未考下ノハ氏神鳳抄三重郡  
九條椿御園廿二町七郷下ア建久ノ頃ヨ  
リ此神社ノ地三重郡ニ屬セリ此御園ハ鈴鹿  
郡ノ椿神田ノ時ニ置タレハ彼神田ノ神猿  
田彦ヲコトシ勸請ニ祀リタル故御園ヲモ神

社ヲモ椿ト云ナリ云云 親教考ニ延經考證  
都波岐神社ノ名ニ批テ鈴鹿郡椿大神社ト同  
ク猿田彦命ヲ祭ルト定メ社域ハ楠村ノ産社  
諏訪明神ト俗稱スルニ批テ諏訪ノ諏ハ都波  
岐ノ都ニ横音通シ都波岐神社ナルハ之然レ  
今三重郡ニ屬セリ按ニ楠ハ因津ノ畧語度會  
郡楠部村因津御祖神社ト曰神ナリ鈴鹿郡志  
波加伎神社モ因都ノ義ニ楠原村ニ在リト  
注セリ正身再考證ハ前考證ニ從テ社地楠村  
産社ナルハ之然レ今三重郡ニ屬ス神名式  
ニ本郡ニ隸入スル異ナリ社地未考ナクハ  
神鳳抄三重郡椿御園云云ハ批テ此御

園ハ鈴鹿郡椿太神社ノ椿神田ト曰ク建久中  
ヨリ所置ニ以彼神ヲ此ニ遷レ祭ルカ故ニ御  
園及神社モ都波岐神社ト名クナリト解ナリ  
愚按ニ延經考證都波伎ノ名ニ批テ鈴鹿郡  
椿太神社猿田彦命ヲ奉祀スルニ由リ此ニモ  
社号曰レケレハ猿田彦神ヲ祭ル云云然リ  
社地ハ三重郡楠村ニ坐ス諏訪明神ヲ諏都通  
音ナル故ニ此神社ニ配スト云ハ妄ナリ諏ハ  
都ト通スルハ此婆伎ハ訪ノ字ニ通ス由カレ訪  
ハ布防ノ反訪ナルヲ略メ波ト填ルナリ猶楠  
ハ因都畧トメ度會郡楠部村ニ所坐ノ因津  
御祖神社ト同神ト云ハ甚非ナリ楠ト名ク

楠七郎左工門尉橋正具河内国楠正成乃後  
孫ニノ永禄中ニ至リ累代此ニ住リ信長記ニ  
見ユタリ曰名クスノキニレテ村名ニモ名カ  
テ後ニ楠村ニ轉訛セシナリ然レハ楠氏ノ居  
スルニ拠テ若ク起リタルニ延喜神名式ノ時  
ハ楠ノ名アルハカラス然ルニ祭神ニ因津ノ  
義ヲ以テ楠ノ名ク義更ニナレ猶度會郡因津  
御祖神社ト曰神トイハレ祭神宇治比賣命田  
村比賣命ニ神ヲ合祀スル処延經能ノ知ル処  
ト然ルニ猿田彦命ヲ此ニ祭ルト自注ニ定  
タルニ陰神ヲ猿田彦男神ト曰神ト云ハ解  
ニ難シ然ル片ハ因津ノ畧言ニ遠所ヲ志波加

伎神社ハ鈴鹿郡川崎村ニ所坐ニ以安藝郡楠  
原村ニ非ス各因津ノ微トスルニ相合ハ内ト  
謂ヘシ正身再考證ニ考證ニ從テ楠村ノ産社  
ナルヘシ然レ楠村ハ三重郡ニ隸レハ疑ヘ  
リ或ハ其社域未知トイハレ神鳳抄椿御園又  
鈴鹿郡椿神田兼久同時ニ置レタルハ彼神田  
ニ猿田彦神ヲ祭レルヲ此楠村ニ三重郡ニ隸屬  
スレバ迂シ祭リタル故ニ神社モ御園モ椿ト  
名クナリト注スルニ三重郡楠村ニ祭祀スル処  
ヲ強テ牽強ノ考證ニ荷擔ス言ナリ然レトモ  
前ニ論ス知ク考證ニ各妄誕ニモ臆度ナリ論  
スルニ不足トス椿御園ニ三重郡ニ隸屬スルハ

同郡知積村ニ坐ス椿岸神社ノ其郷ニ属ス神  
田ナルハ明ナリ鈴鹿三重ノ隣比ノ郡ナレハ  
郡ノ混セルモ量ルハカラス椿神田椿御園ト  
椿ノ字ヲ填レハ都波岐ニ非ス同名ナルハ故  
ニ字ヲカヘテ延喜式ニ載ルコトハ神鳳折モ  
神名式ニ從フニ拙テ椿田園凡ニ椿太神社ノ  
領スル外ト知ハシ其三重ニ混入スルヲ以テ  
強テ都波岐神社ヲ三重郡楠村ニ所坐トスル  
ハ從ニ難モ又椿太神社ハ本社ニテ都波岐ハ  
後ニ所遷ト云片ハ其神田御園ハ本社ニ属ス  
ハキナリ然レニ都波岐神社ノ中戸村ニ所坐  
ハ三代實録貞觀七年授從五位上勳七等椿神

正五位下ト載ラレニ宮記ニ神社考神社啓蒙  
等俗書ニモ亮然ナレハ大社ナレハ都波岐ノ名  
ニ拙テ此神社ニ眼ノ着少ハ未処ニニ考證凡  
ニ傍ニ以獲得ナルハ怪ムハレニ神名帳校正モ  
ニ考證ニ因ク楠村産神ナルヘレト云ニ從テ  
リトイハレ勢陽雜記拾遺及式社案内記ハ中  
戸村ニ所祭トス処ニ從フヘレ猶都波岐神社  
ハ本州一ノ宮下称メ方俗ノ誇言スルト云ハ  
凡此地ニ祭ハキ所傳詳ナラス前ニ載ス社傳  
ノ俗傳ハ齒牙スルニ及ハストイハレトモ童蒙  
ノ惑ニテ辭シカクメニ標出スル事及ハレ  
式内奈加等神社ニ同社同殿ニ併祭ル非度會延

大經神名帳奈加等神社旧事記曰天樞野命中  
跡ヲ直等祖倭名抄云中跡奈加止郷名也神戸  
良位世町有中戸村有社ト云云 度會正身再  
考證曰奈加等神社和名抄ニ中跡 奈加止郷名  
也神戸人良世下ニ中戸村アリテ有社ト云旧  
事記曰天樞野ハ中跡直等祖此中跡ノ直ハ此  
地ヨリ出タル氏姓ニテ天樞野命ヲ祀ルナリ  
云云 親教考ニ延經考證ニ奈加等神社ハ旧  
事記ヲ引扱シ中跡ノ直人遠祖天樞野命ヲ祀  
ルハ義水ニ和名抄ニ中跡ノ郷名ニ相合ヒ又  
神戸ノ良位ニ中戸村アリテ其処ニ社域アリ  
ト定ムナリ正身再考證ハ前説ニ從ヒテ別

論ナシ中跡直ハ此地ヨリ出タル氏姓ニテ天  
樞野命ヲ奉祀スル解キ明ニ思按ニ中跡ハ和  
名抄ニ所載ノ郷名ナリハ明ナク然ルニ中跡  
直ノ此地ヨリ出タル氏姓ト云證慥ナラス中  
跡ノ名ノ偶ニ合ヘルナレハ祭神天樞野命ニ  
配スルモ妄ナリ姑ク從ヒ難シ古屋草紙祭神  
天櫛姫又背書田誌天櫛野媛此ハ天樞野命ノ  
父礼ヲ久志ト誤テ媛ト陰神ニ訛レルナリ勢  
陽雜記天樞野姫命ニ作ル各非トスヘレ今闕  
スルニ都波伎神社ノ相殿ニ併祭ルリ延喜神  
名式ノ所載ハニ所ニ座ニ別テ置ル処ニ後  
世ニ合祭スルト憶ヘリ其旧址未考得ス猶索

須加 神戶府ノ良位ニアリ平坦田畝ノ間ニ民  
居ス訓字ノコトシテ正税千百五十九石勢陽  
雜記津領保田領入組トス明曆中因紀州領津  
領入組今津領有馬備後守領入會トス一志郡  
須加田名アリ神鳳抄外宮須可寄御厨土分  
六石雜用十石須加崎寄ト称ス片草此地ハ  
岐ノ義ナシ山傍ニ外海濱ニ  
非ス推メ知ヘシ  
阿自賀神社 神戶取ト本邑ハ中間ニアリ方俗  
八幡宮ト称ス神戶高市神社ト云々乾位五丁  
度會延經神名帳考證曰阿自賀神社素盞烏尊

按阿吾也自賀清也古事記曰速復佐之男命曰  
我心清明神鳳抄曰須可崎今云須賀村云々  
度會正身神名帳再考證曰阿自賀神社和名抄  
ニ高 漢語抄ニ曰阿自賀上古穀ヲ盛ノ菴ナ  
リ是ヲ社号トスルハ倉稻菟ヲ祀レルコトハナ  
リ須賀村ニ在リすカハ阿トカノ志カノ訛ナ  
ルヘシ 親毅考ニ延經考證ハ阿自賀神社ノ  
社号ニ拠テ阿ハ吾ナリ自賀ハ清淨ナリト叙  
メ素盞烏命ノ我心清明ト宜ル語ヲ引拠メ即  
素盞烏命ヲ祭ルト注セリ 愚按ニ阿自賀ノ  
名義ハ然ニハスルハカラス從テ難シ須加ハ  
猶考アリ正身再考證ハ阿自賀ハ和名抄ヲ引



此穀ヲ盛ル器ナリ故ニ倉稻魂ノ穀神ヲ祀  
リ須加ハ高ノ訛畧テルハシト辨スルモ從  
難シ九テ社号ニ某田ノ名アリト穀魂稻倉魂  
豊宇氣姫命等ノ穀食ノ神ヲ配シ叙スルハ一  
僻ナリ深ク考得スモ妄ニ自己ノ意ヲ叙スル  
ニ其證トシ難シ須加ノ名義ハ東海ノ俗總  
メ海岸砂磧ノ地及水厓ノ処ヲ指メ須加ト称  
スルナリ本州一志郡須加及須賀瀬菴藝郡白  
塚郡塚ノ須加ノ轉ナリ日郡天須賀兼名郡赤  
須賀等ノ口トシ其餘ニ河遠江国ニ掛須賀白  
須賀アリ各河海ニ臨ル地ノ名ノ処ナリ故ニ  
此須加ノ地ニ神戸府城ノ東ヨリ南若松ノ海

涯ニ流ル河流アリ其河以北ニ村邑アリ神社  
ハ神戸ト須加ノ間ニ在下ノ所ハ須加村ノ有  
ナレハ此須加ノ地モ上ニ倂テ知ヘシ然レハ  
阿自賀ノ謂ニモアルハカラス猶須加ハ古昔  
ヨリノ旧名ナレハ穩當ナリ然レハ今古名ノ  
變リタルアリ延喜神名式ノ載ラルノ時須加  
ノ名アレハ阿自賀モ轉訛ト云ヘキトイヘハ  
量リ難ク考證ニ清明ノ義ト云モ曰シ須加ハ  
千古不易ノ名ナレハ從ヘシトイヘハ阿自賀  
ノ名義未考得ス試ニ云阿自賀ハ上世ノ地名  
ナルヘシ既ニ一志郡阿射賀神社アリ今河坂  
村ノ名アルハ上世ニ變サルカ故ニ知易シ若

河射賀モ但二坂ト云ヘキニ河ノ字以冠シメ  
タルト謂片ハ河自賀モ自賀ハ須加ノ通音ニ  
メ河ハ上虚字トスヘシ然レハ考證所収ニ通  
孰レ今古ノ村名ノ不変ト云ハ測リ難ク此故  
ニ前考證ノ社号及祭神ヲ配ス悉ク信難シ神  
名帳校正白須賀村ニ坐スト云菴藝郡ニ隸レ  
リ妄ナリ古屋草紙勢陽雜記考證ニ例トテ猶  
須加村ニ坐スト定テ相付シ各從ヒカクシ  
神戸駅城府須加ノ坤位ニアリ伊勢街道ノ駅  
舎アリ東都ヨリ百二里十一町菴藝郡白子ヨ  
リ一里十八丁往昔大神宮神封ノ地ナリ故ニ  
神戸ト名ケ城廻正税四百九十石神戸領ナ

リノ属邑十日市神戸ノ南石ナリ矢田部神戸  
ノ東口ナリ権現町神戸ノ南ニアリ駅舎本町  
鍛冶町笠町石橋町萱町民家八百余戸往昔今  
ノ駅舎ハ西條村ニアリシ民居ヲ弘治年中今  
ノ地ニ移セリ毎月五日十日十五日廿日廿五  
日晦日市麩ヲ開キシ故府城ノ南ニ十日市町  
アリ鍛冶町ハ神鳳抄加治基御園ニ又旧神  
領ノ地ナリ後ニ訛テ鍛冶町ト名ク又云往昔  
此地ニ石堂入道真戒ト号ス鍛工アリ今ニ傳  
ヘテ名トス小俗傳アリ未詳神鳳抄河曲郡神  
戸御神酒三斗副米九斗祭料並造酒米二石懸  
稻四十束織御衣一疋荷用御調糸二疋蓮十枚

薦世牧長藤御厨外宮上分二石雜用九石曰神  
戶田數百六十三町一本並作兼誤四拾作三  
拾或作本田百町加納九十町神領雜例集曰  
光孝天皇之時大鹿武則預河曲郡云云  
神戶府城其始、関四郎平宗盛法名柏巖ヨリ  
五世神戶下總守天文年中所築其子神  
戶四郎藏人大夫具盛實、因司比畠大納言政  
具、男ヲ養子トス法名樂三ト号ス真善院記  
録ニ岩内玉膳光安ケ男トス未詳其子神戶下  
總守法名涼巖其子神戶藏人大夫友盛實、下  
總守涼岩ノ弟トシテ永祿二年下總守没ス凡  
ニ此ヲ嗣トス友盛ノ女織田平信孝ヲ配シ

城主トス、神戶三七郎ト名リ永祿十五年  
伊勢一田平壤ノ後城附五万石ヲ領セリ神戶  
友盛隱居シテ蒲生左兵衛督賢秀ニ預ケラル  
高丘城ハ信孝ノ弟小島治ヲ少捕ニ給フ天正  
八庚辰織田三七信孝五重ノ殿主ヲ揚ク今ニ  
存スル処ナリ神戶家士四百八十余人及神戶  
家族ハ峯田府鹿伏鬼稻生以下信孝ニ屬ス其  
餘十戊午年四田管領ニ補スルニ此テ高丘城  
主小嶋治ヲ少輔ヲ當城ニ遷シ居セシム神戶  
友盛ヲ許メ沢ノ城ニ遷シ神戶ノ苗守ヲ監セ  
シムナリ其時織田信雄信孝兄弟鋒盾ノ下  
リ豊臣秀吉池田紀伊入道勝入丹羽五郎左衛

門尉長秀等ハ信雄ニ屬シ柴田修理亮勝家瀧  
川左近將監一益佐之内藏亮成政前田又左衛  
門利家ノ輩信孝ニ屬シ信孝ハ美濃國岐阜城  
ニ移ル故ニ信雄其臣林與五郎ニ命メ神戸城  
主小嶋治ア少輔ヲ征セシム林與五郎ニ當城  
ヲ給メ居ス神戸與五郎ト称セリ神戸友盛信  
雄ニ屬シ與五郎カ男子ハ神戸家ノ塔ト云天  
正十三年春織田信雄豊臣秀吉ト鉾揃ニ及テ  
蒲生飛彈守進藤山城守関安藝守万鉄入道父  
子近江軍兵ヲ率シテ信雄屬城神戸及田府ヲ  
伐ツ故ニ神戸與五郎田府二郎四郎敗績尾張  
清須城ニ奔リテ織田信雄ニ屬ス又神戸藏人

友盛澤城ヲ奔テ織田上野介平信包ニ屬メ安  
濃津ニ到テ卒去ス茲ニ到テ関四郎重代ノ神  
戶家滅亡セリ 天正十二年織田信雄命メ生  
駒雅樂ハ一政ヲ城主トス同十年辛酉年冬生  
駒氏讚岐國ニ遷ス又信雄滝川左近將監一益  
ニ賜テ領ス同十八年豊臣秀吉滝川下總守ニ  
命メ居シム姓ヲ改メテ羽柴下總守豊臣勝雅  
ト称ス慶長五庚子年一柳監物越智直盛ニ賜  
リテ城主トス羽柴下總守ハ下野國田中城  
ニ遷ル一柳ノ嗣子丹後守直重相續テ居城ス  
後ニ伊豫國河野ニ遷リ寛永十一年石川播  
磨守總長ニ賜フテ二万石ヲ領ス其子若狭守

總領相續テ居ス此時三千石石川分家へ頒夕  
リ其子近江守總茂領ス後ニ常陸田下館へ  
移リ享保十七年本多伊預守藤原ノ忠統ニ賜  
フ其子丹後守忠長其子丹後守忠興其子伊豫  
守忠景ニ至ル相継テ一万五千石ヲ領セリ  
東照神君御父廣忠公御逝去ノ後  
神君當城ニ御成長了リニ事三河記開運録



勢陽五鈴遺郷音河曲郡卷之二終

紙數四拾貳枚

42

卷頭抄の... 此時三十石... 伊豫守... 其子丹波守... 守忠長... 東照神君御父身志... 御成... 御成... 御成...



替陽年於道御首河内郡...

紙表四書武家

